



渡辺 大直

9月23日から25日まで東京ビッグサイトで、「世界最大級 旅の祭典」と銘打ち、ツリーズEXPOジャパンが開催された。国内のみならず海外からも企業や国、自治体などが多数参加し、自然や産物、歴史的遺産や伝統芸能等各地のさまざまな魅力を紹介していた。但馬県民局と但馬ふるさとづくり協会は一昨年からこれに参加し、但馬を訪れる人を増やすために但馬の魅力を発信してきた。

その協会の友人に「但馬牛

で但馬を世界に知ってもらいたいんだ」とうまく乗せられ、「たじま牛まつり」の直前なのに、東京まで出かけることになってしまった。

但馬牛の知名度といえば、

20年ほど前、東京から母がブリブリ怒りながら帰ってきたことがある。東京のデパ地下で、但馬肉と表示した肉を見て隣の客が「ただし馬肉って何？」と言ったという。「東京の人はモノを知らない」としばらく治まらなかった。

牛肉文化の関西では、肉と言えば牛肉を指し、神戸肉や但馬肉と看板に掲げる店もある。しかし関東は豚肉文化で、牛肉を肉と表示することになりがなかったのかもしれない。だが、何よりその客は但馬牛のことを知らなかったのだ。

それとは逆に、神戸ビーフと但馬牛を商標登録しようとした時、特許庁の担当はフランスパンと同じで、一般名詞化しているから登録できないと言った。神戸ビーフや但

試食用の肉を焼き始めると、すぐにできた行列
「ツリーズEXPOジャパン会場」



ビーフや但馬牛の知名度は高いようにも思える。

さてビッグサイトの客はどうだろうか？ 少々不安を感じながら、ステージに上がって試食用の肉を焼き始めると、すぐに行列ができた。但馬牛の講釈を始めると、待っているお客さんがこっちを向いてうなずきながら聞いてくれた。

その中の外国人が流暢な日本語で「これは神戸ビーフと同じか？」とたずねてきた。「同じ」と答えると、「あれはうまい。3回食べたがとってもうまかった」と言った。

数少ない知っている英語で「サンキュー」というと、「友達に紹介しておくよ」とニコリ笑った。

そんなこんなで、少しは但馬PRのお役に立てたかなと思いつつ、後は協会のスタッフにお願いして「たじま牛まつり」のために東京をあとにした。

■筆者プロフィール■
わたなべ・ひろなお
1954年、新温泉町浜坂出身。県職員として畜産行政に長年携わってきた。県立但馬牧場公園「但馬牛博物館」館長。

但馬の魅力発信に一役